

吹雪の日も大雨の日も、山の住民に郵便物を届けた配達員。六甲山郵便局（神戸市灘区六甲山町）の局員を主人公にした絵本「やまのゆうびんやさん」の朗読会がこのほど、六甲山上のカフェ「TENRAN CAFE(テンランカフェ)」(同)であった。出版から四半世紀。知る人が少なくなった物語を読み継ごうと、イメージ楽曲も作られた。
(有島弘記)

朗読会で読み継ぐ

山上のカフェ

パネル展示も

NPO法人「六甲山と市民のネットワーク」(同市東灘区)の統括マネジャー中野真紀子さん(同区)が中心となって企画した。

物語は郵便物を六甲ケーブルで山上に運ぶところから始まり、季節ごとの配達事情を基に展開していく。

深い雪道。郵便物を積んだ自転車を子どもたちと押す局員は「やあ、すまんな。たすかるよ」。暴風雨で自転車が倒れた場面では、はがきだけは守ろうと、かばんを抱え込む姿が描かれている。

中野さんが初めて読んだのは3年前。同郵便局に残されたコピーだった。1989年発行で、すでに絶版。現物を探しても、持っていたのは同

六甲山郵便局員が主人公の絵本



絵本「やまのゆうびんやさん」の楽曲披露を兼ねた朗読会＝神戸市灘区六甲山町

郵便局の元局員で、六甲山ふを付けることで広めていこうと、ピアニストの雁瀬由香さんと、音楽 ん東灘区と楽曲制作を進

物語に合わせ楽曲も

めた。

音色は局面ごとに変化し、年賀状1号便の出発式の場面は軽やかに。朗読会では読み手に合わせて雁瀬さんがピアノを奏で、集まった約40人を物語の世界に引き込んだ。

中野さんは「楽曲によって五感で感じる絵本になった。子どもたちにも披露していきたい」と話している。

会場では3月1日まで、絵本や作品の描写と重なる写真パネルを展示。午前11時～午後8時半。入場無料。テンランカフェ ☎078・891・1011



六甲山郵便局をモデルにした絵本の実物